

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）
2025年 第38週（9月15日～9月21日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

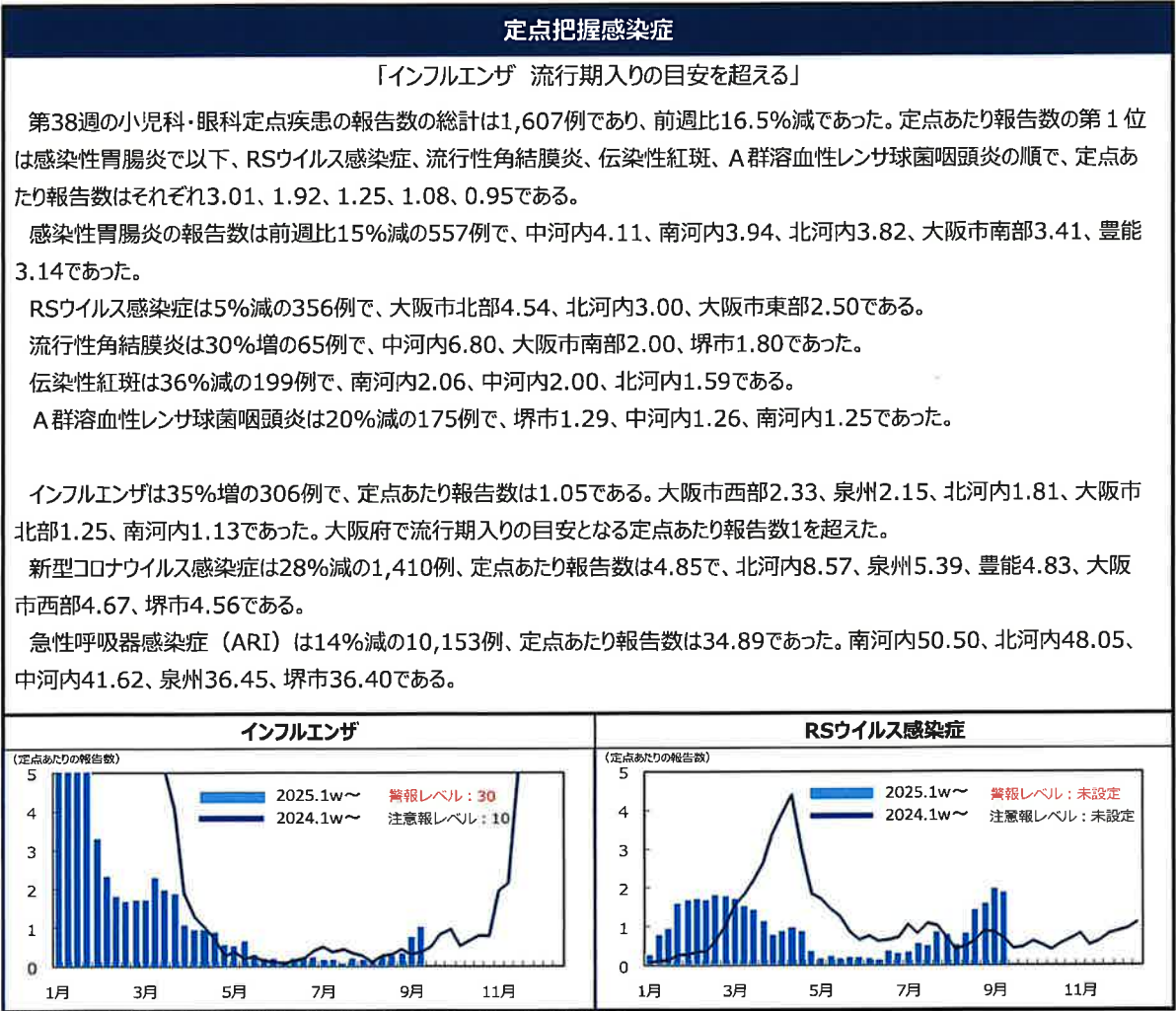


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2025年 第38週9月15日～9月21日）

第38週 の順位	第37週 の順位	感染症	2025年 第38週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2024年 第38週の 定点あたり 報告数	2025年第38週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.01	15%減	2.74	1歳_17%
2	2	RSウイルス感染症	1.92	5%減	0.68	1歳_35%
3	5	流行性角結膜炎	1.25	30%増	0.19	20歳以上_48%
4	3	伝染性紅斑	1.08	36%減	0.03	5歳_22%
5	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.95	20%減	1.71	6歳_13%
参考		インフルエンザ （急性呼吸器感染症定点報告疾患）	1.05	35%増	0.36	10-14歳_22%
参考		新型コロナウイルス感染症 （急性呼吸器感染症定点報告疾患）	4.85	28%減	2.58	10-19歳_25%
参考		急性呼吸器感染症 （急性呼吸器感染症定点報告疾患）	34.89	14%減	-	1-4歳_38%

2025年第15週から急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection：ARI)サーベイランスが開始となりました。

2025/26年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ（[定点把握疾患、疾患別情報、病原体検出情報](#)）をご覧ください。

～腸管出血性大腸菌感染症～ 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

全数把握感染症

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌で、代表的なものはO(オー)157、O26、O111がある。汚染飲食物を介する経口感染がほとんどで、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群を起こす場合がある。3-5日の潜伏期において、激しい腹痛を伴う頻回の水様便の後に、血便となる(出血性大腸炎)。発熱は軽度で、多くは37℃台である。有症者の6-7%では、発症数日後から2週間以内に、重症の溶血性尿毒症症候群を発症する。初夏～初秋は腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加することから、十分注意が必要です。

[腸管出血性大腸菌感染症（大阪府感染症情報センター）](#)
[腸管出血性大腸菌感染症（詳細版）（国立健康危機管理研究機構）](#)

年別累積報告数（大阪府）

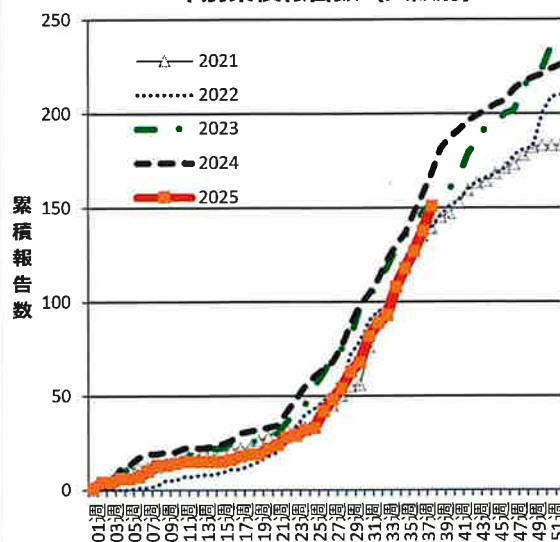


表2. 大阪府全数報告数（2025年 第38週9月15日～9月21日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります（報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ「週報」全数把握疾患をご覧ください。）

[illegible]

(2025年9月23日 集計分)